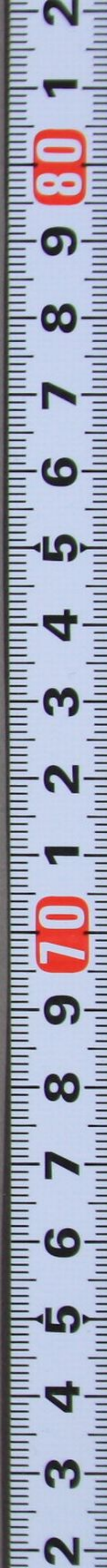


吳中記

十一
二編





以下

3丁

白紙



實年
源
喜

源



源

み

子

十一編

柳之仙果著

梅繁樓

國貞画

源年
實年
喜

喜雀堂

源年
實年
喜

仙果作 國貞画

實は六十一編

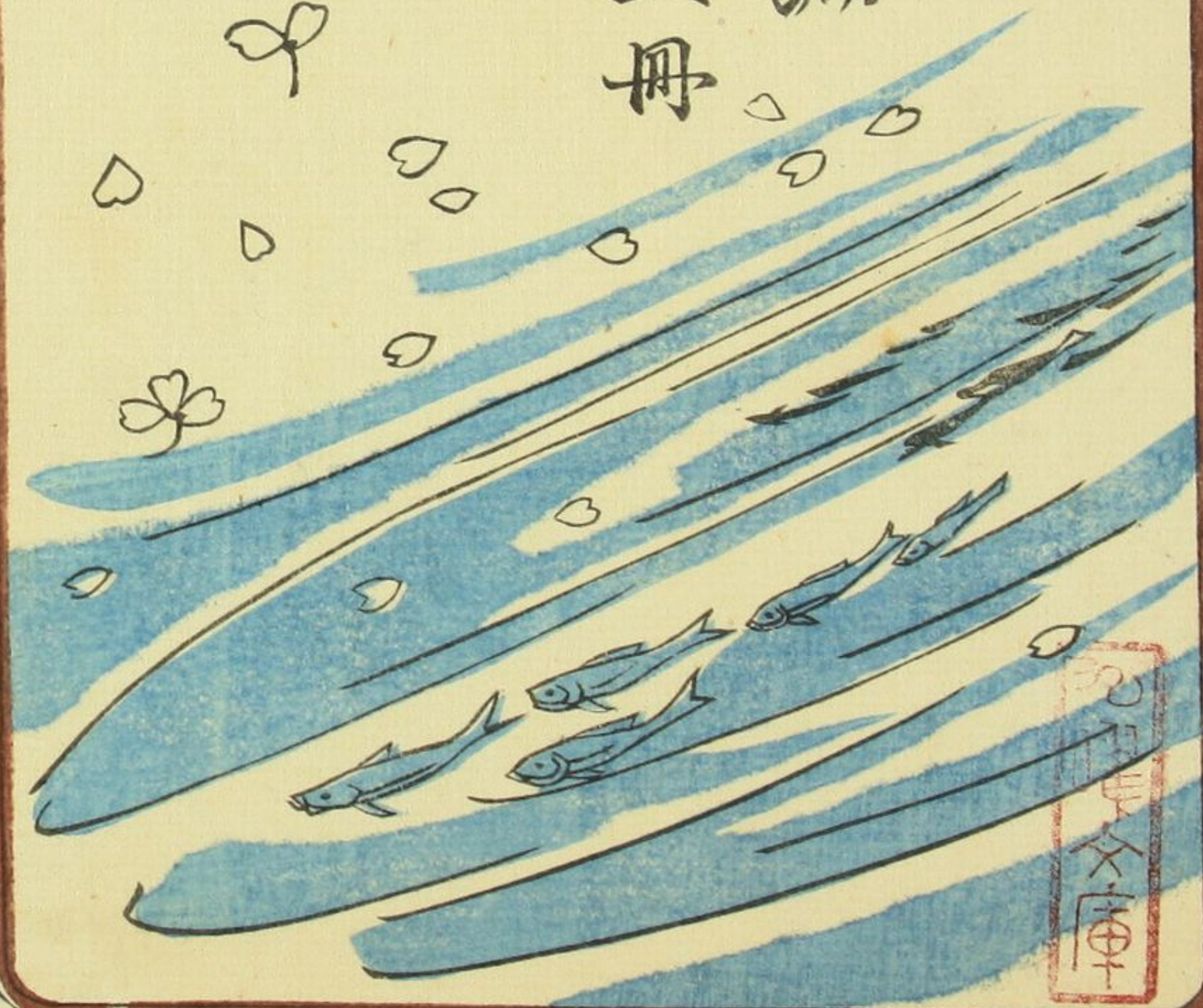
上冊

畫の趣の

後見が

彌明

図七



此一篇へ尾張にて草せり田舎人の頑し其といふ朋友の稿本を見て嘲るる

授手子に女中調弄るる妹背山の御殿場を宣孝院此系不赴き此系式部

画賛とるあつらへ石魂録の面影より藍より出く水洩葱染返へ榮は

也一言不遺籠り説得是了然云無理やのあつらへと五百羅漢の其

中必親小侶と顔のある比々年々歳々著述數十部不及ぶるふ

他のふも自のちも肖るものあつらへた扱足下此二を難く未似る

事を本編小綴るるを尤らぬいふ何ぞと云ふ授手子と式部小踊の所望

画賛の詭田畔の池小庭の泉水事を異と入水の覺悟又々々々遇ぬ父

名告るるも二度中て是との蒙求の比事小倣ふるものあつらへ金聖難

所謂正犯るるの文法を博識りかて用ゐるもの非ず都て余倉卒たる錯

實正の言句も出守と自己ら我非を揚榭の使女が言辭より起筆す

三五 安政五年午孟春新刻

柳々老人仙果



美此十一



丹生使宣孝徒類亦大藏種村
 凌轅せらるゝ寛和元年七月十三日
 一条院天皇の御代の
 事とまらへ

大和国宇智
 郡の大領

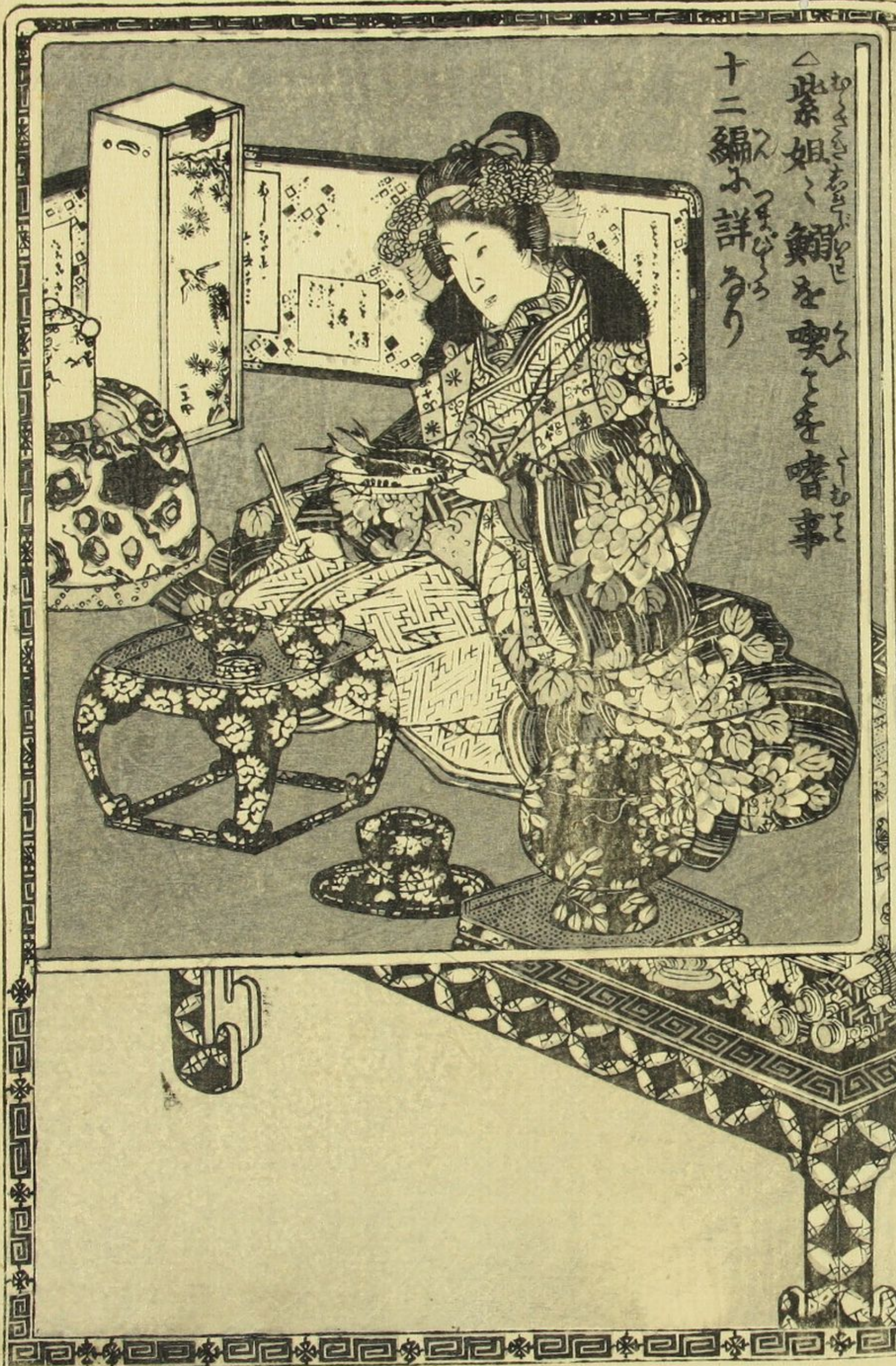
大藏種村

種村
 紫式部
 恋慕
 一條の
 根も
 愚作
 るり



伊賀権助
 大藏種村
 技書小
 伊賀権助
 大藏種村
 技書小

〇



紫十一



美濃十一

五



美濃十一



あつちのうらやま
のうらやまのうらやま
のうらやまのうらやま

あつちのうらやま
のうらやまのうらやま
のうらやまのうらやま

あつちのうらやま
のうらやまのうらやま
のうらやまのうらやま

あつちのうらやま
のうらやまのうらやま
のうらやまのうらやま



あつちのうらやま
のうらやまのうらやま
のうらやまのうらやま

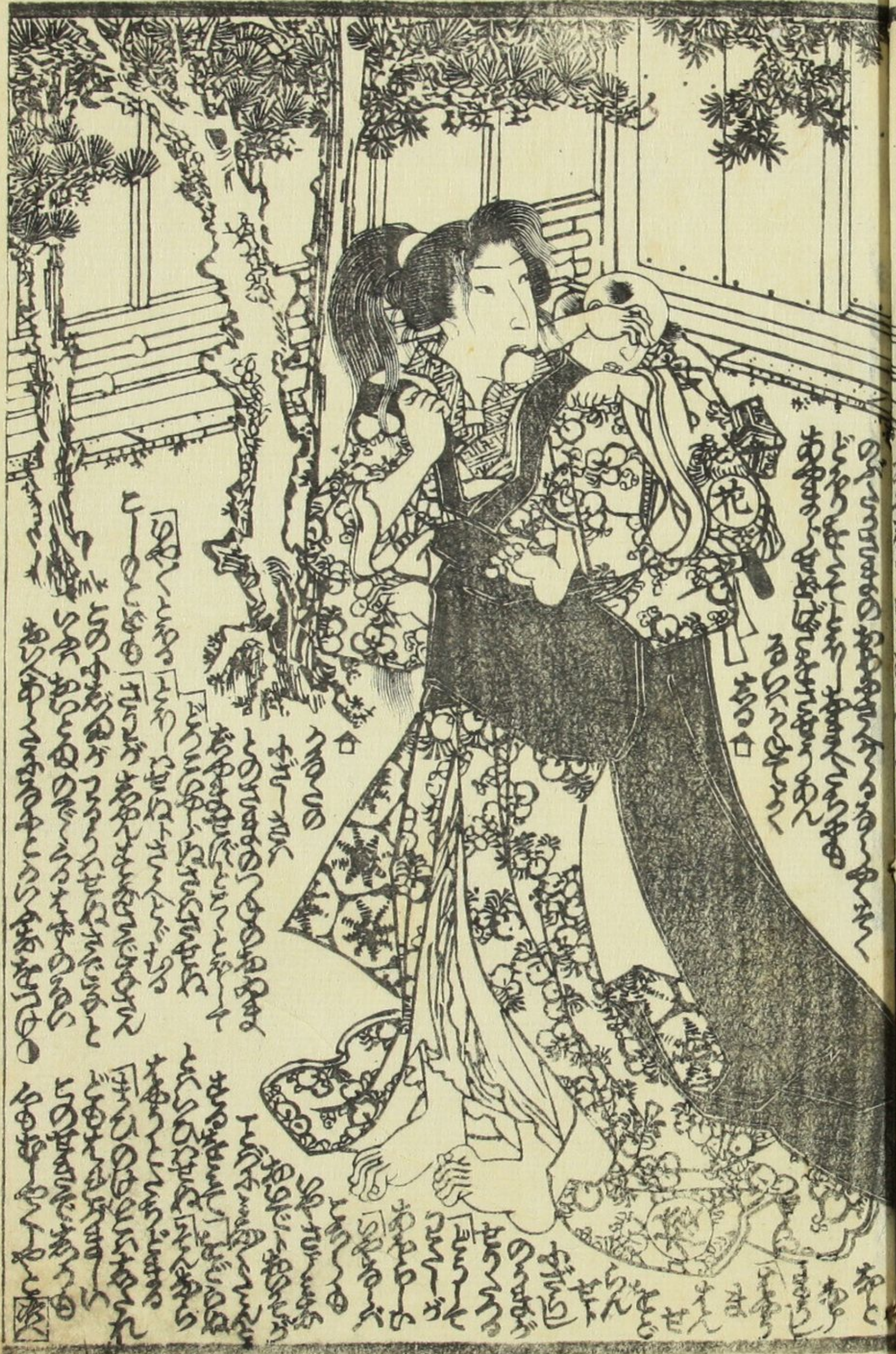
あつちのうらやま
のうらやまのうらやま
のうらやまのうらやま



Vertical Japanese text in the bottom left corner, likely a scene description or dialogue.

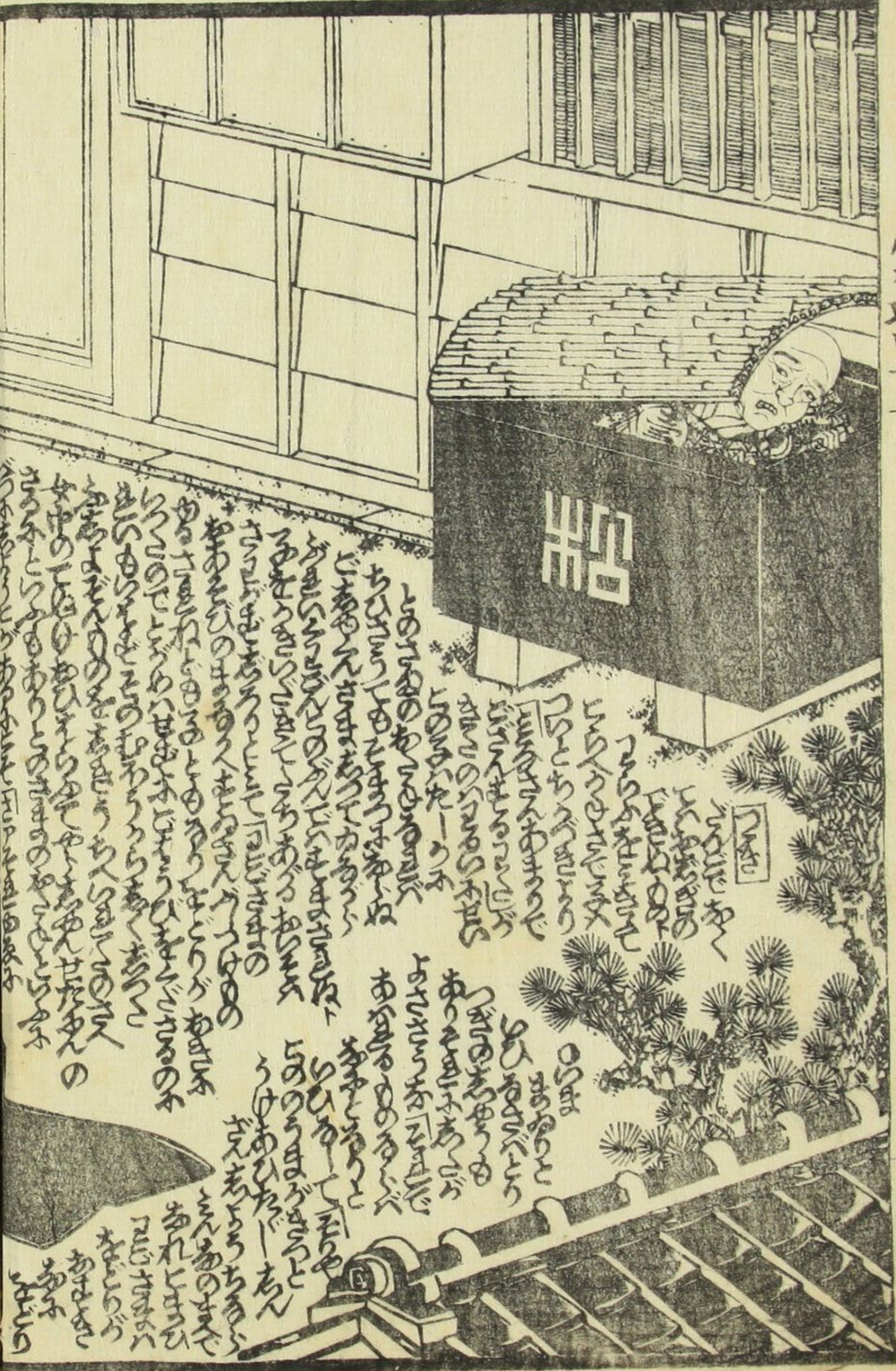


Vertical Japanese text in the bottom right corner, continuing the scene's dialogue or description.



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy, surrounding the illustration. The text is arranged in vertical columns, following the contours of the scene.

Vertical text on the left margin of the left page.



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy, surrounding the illustration. The text is arranged in vertical columns, following the contours of the scene.

Vertical text on the right margin of the right page.



Handwritten text in a vertical column on the left side of the page, written in a cursive style.

Handwritten text in a vertical column on the right side of the page, positioned above the man's head.

Handwritten text in a vertical column at the bottom left of the page.

11



Handwritten text in a vertical column at the top of the page, written in a cursive style.

Handwritten text in a vertical column on the left side of the page, positioned above the woman's head.

11

國貞画 仙果作



紅藍吏部 一代紀聞 **根源實紫** 十一編より十三編迄 仙果作
 當午春賣出 國貞画

十編 梭子兒松崎の邸まで女中小島等に嘲弄せらるる憤小堪ぞ入水せんとして實父壽祖不留り。此式部野洲子鳥兒と共に北野詰の折柄大藏種村が過りに到り。末小棄童亡呂赦免ふ遇ひ近江歸途中亦自己も知らぬ親不會條にて快終都て花麗る物語(十一編棄童式部の危難を救ふ種村本心と失ひ式部と合歡可笑味此事より式部夫不疑と野洲子壽祖と祈らるる奇病小苦)終ふ死に至る等の悲哀を條多(十三編鳥兒式部を姉の誓として害を加んとす大貳三位の誕生梭子兒嫉妬の惡念宣孝小殺すと宣孝も金創重りて落涙又北越ふ赴きける惟規の事を細記少將の君の貞操と説く十四編以下)の崖畧ハ別小記すべし

芝神明前 喜鶴堂主人敬白

貞畫

國



仙果化

十一編下

壽案

外題曲五國





十一

九

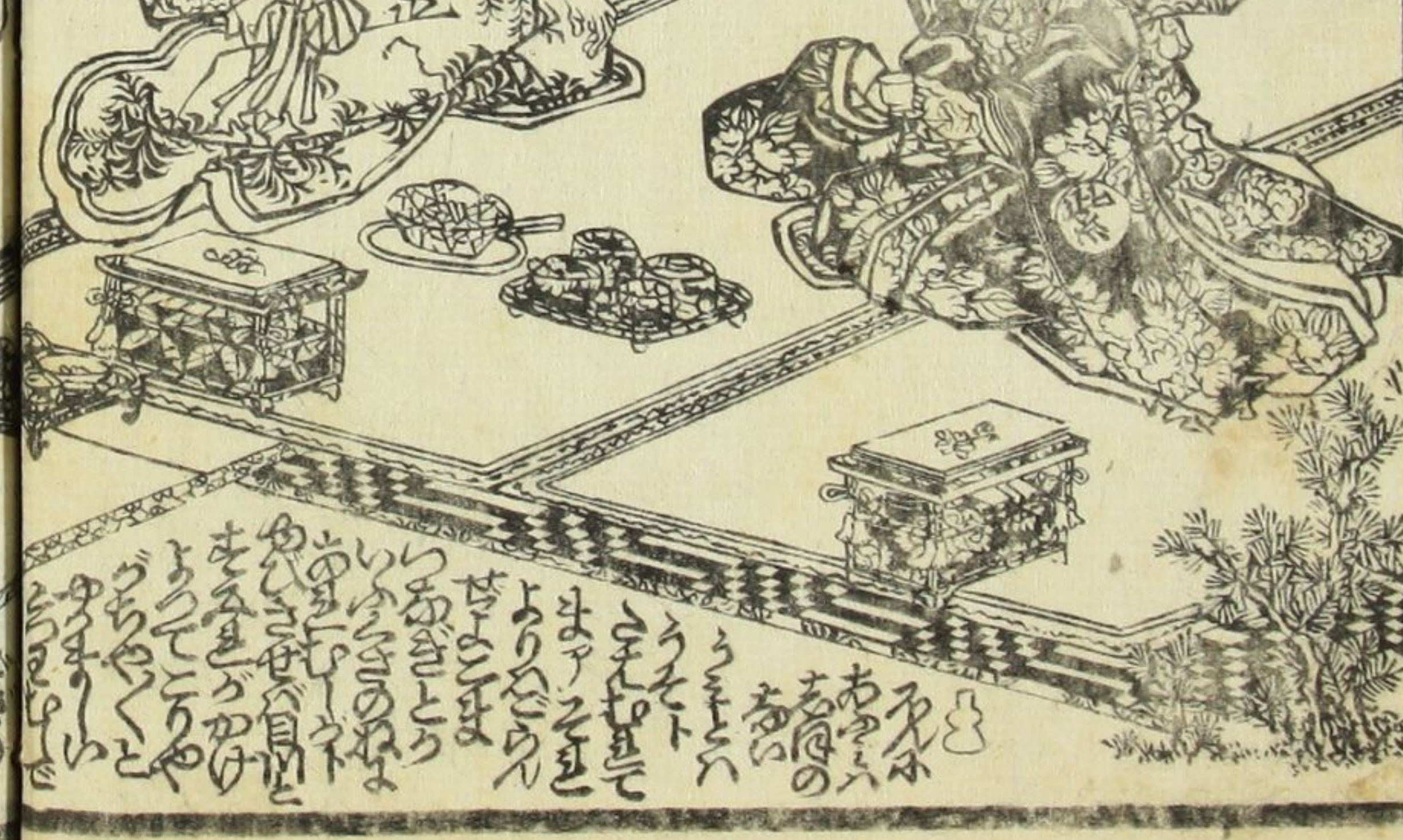
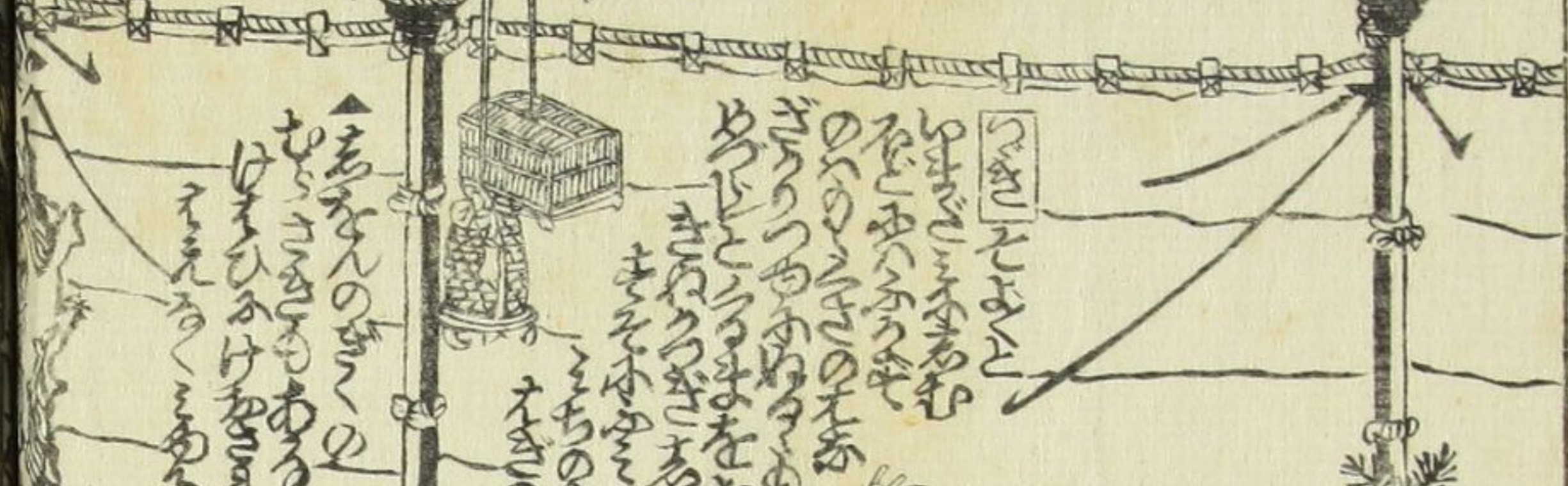
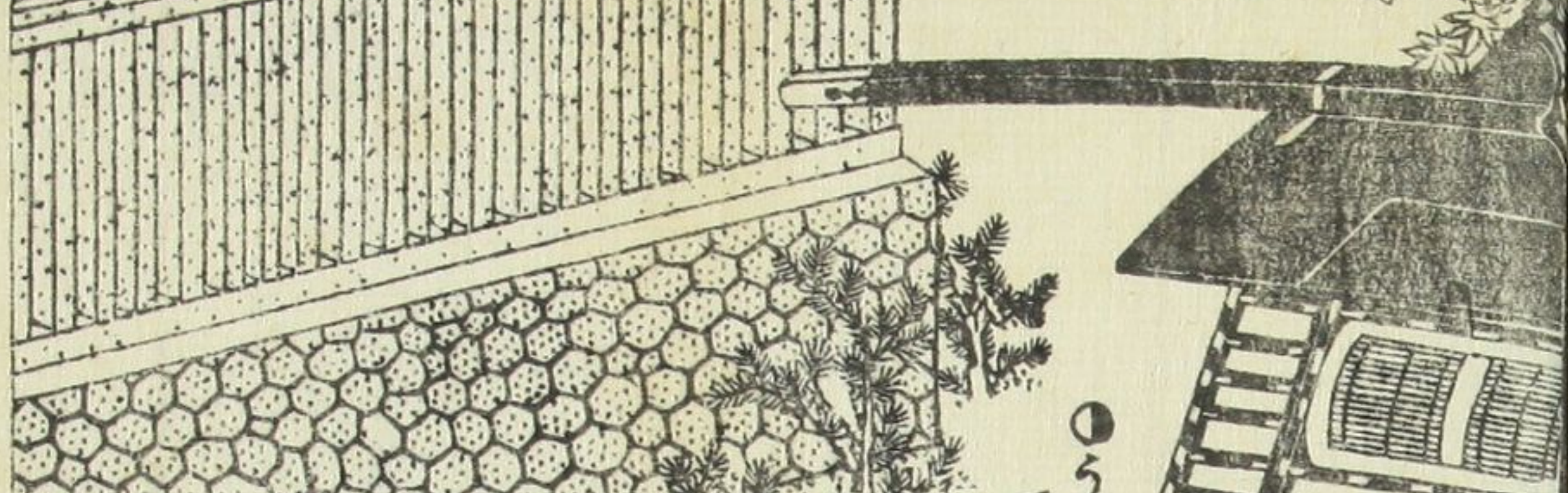


仙果著
國貞畫
喜鶴堂梓

英

子

十一編作再



亭
一

二

四



美七

十一



美七

十一

此の物語は、昔の事だ。ある日、ある村に、
 一人の武士が、山へ出て、木を切りに出た。
 すると、山の中へ、狐の足音がした。狐は、
 武士の姿を、遠くから見て、驚いて逃げた。
 武士は、狐の足音を、聞いて、山の中へ、
 追いかけて、狐を、捕まえた。狐は、
 武士の手に、捕まると、涙を流して、
 武士に、話した。狐は、昔、この村に、
 住んでいた。狐は、村の人々を、愛して、
 村の人々に、お返しに、お礼を、
 言っていた。狐は、村の人々に、
 お返しに、お礼を、言っていた。狐は、
 村の人々に、お返しに、お礼を、
 言っていた。狐は、村の人々に、
 お返しに、お礼を、言っていた。

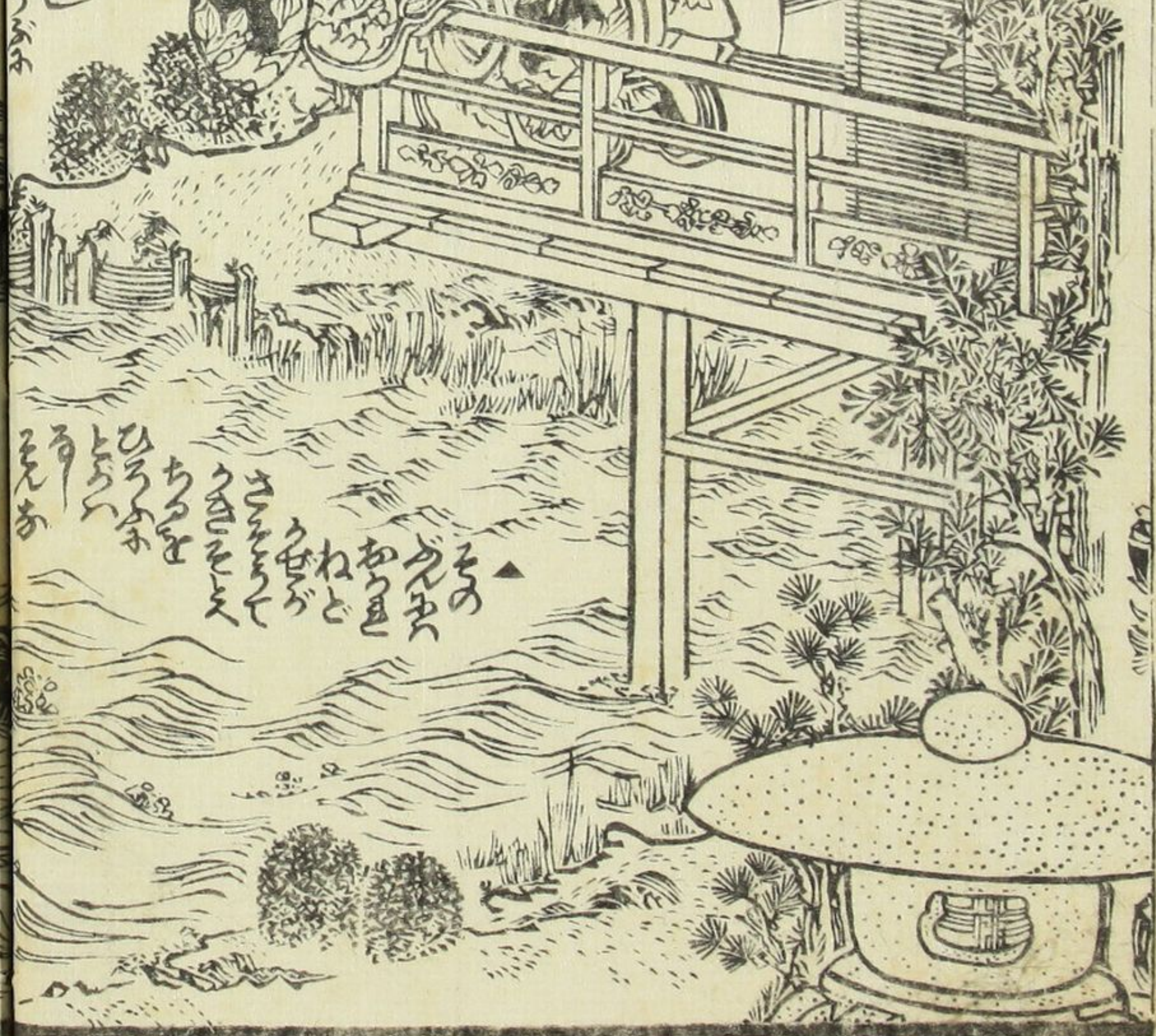


此の物語は、昔の事だ。ある日、ある村に、
 一人の武士が、山へ出て、木を切りに出た。

此の物語は、昔の事だ。

此の物語は、昔の事だ。

此の物語は、昔の事だ。ある日、ある村に、
 一人の武士が、山へ出て、木を切りに出た。

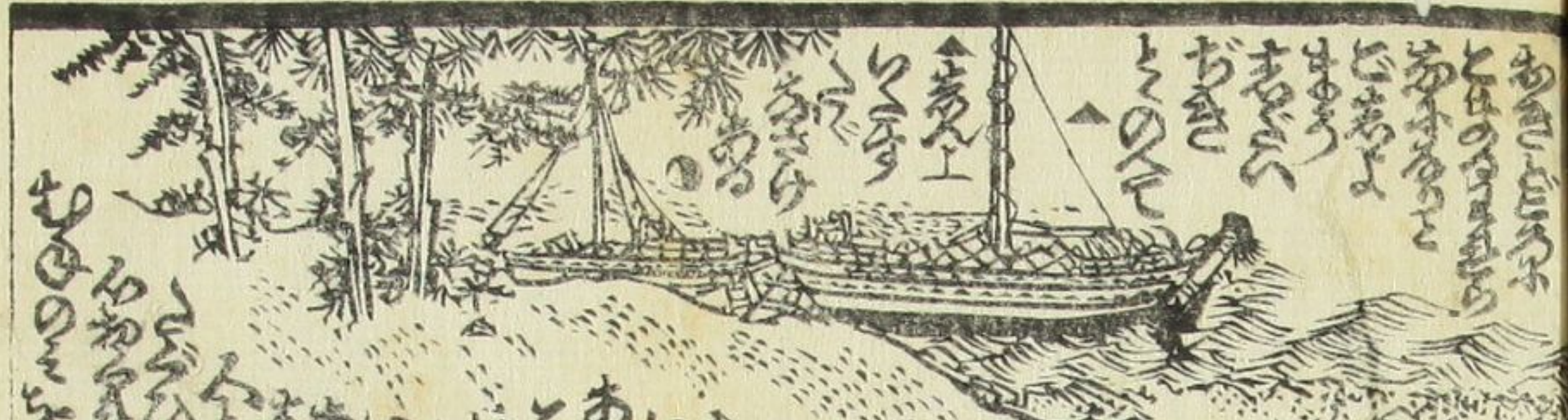


此の物語は、昔の事だ。

此の物語は、昔の事だ。

此の物語は、昔の事だ。

此の物語は、昔の事だ。



あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり



あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり

右ハ

七



あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり



あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり
あつちのり

美

七

Handwritten text in vertical columns at the top of the right page, likely a preface or introductory text.

Handwritten text in vertical columns at the bottom of the right page, continuing the narrative or commentary.



Handwritten text in vertical columns on the left page, surrounding the illustrations and providing context.

仙果作國貞画



乃きしまのこころをいひたまへりて
 ようやくののちをいひたまへりて
 おはしとののちをいひたまへりて
 ありてののちをいひたまへりて
 ありてののちをいひたまへりて
 ありてののちをいひたまへりて
 ありてののちをいひたまへりて

これいかにいふほど
 まことおのちをいひたまへりて
 まことおのちをいひたまへりて
 まことおのちをいひたまへりて
 まことおのちをいひたまへりて
 まことおのちをいひたまへりて
 まことおのちをいひたまへりて
 まことおのちをいひたまへりて



諸合藥

江戸之大通宇田川町西側中程

紀伊國屋丸兵衛

御藥種丸散丹圓諸合藥精製吟味別而念入申候
 其外之可藥最上極品貯且定價廉直也

牛黄丸 大人小兒驚風
 急后救ふ良藥也

家傳救命丸 大人小兒万病急症を救ふ至極良藥也

瀉梅 中下きつけとくけしは二日あひのあはせしめん

山姥の毒はあつてもろくのまじりておしりけりて
 此の毒はあつてもろくのまじりておしりけりて
 此の毒はあつてもろくのまじりておしりけりて

安政五年戊午春新鑄目錄

地本繪草紙團扇問屋

芝神明前三嶋町角
佐野屋喜兵衛板

おま 山東庵京山作
琴聲美人録 十五編
十六編
十七編

立川齋國郷画

おま 笠亭仙果作
花兄弟陸奥名所 初編
二編

同画

えん 為永春水作
新增補西國奇談 五編
六編
七編

同画

おま 山東庵京山作
娘庭訓金鶏 二編
三編

同画

えん 笠亭仙果作
根源實紫 十一編
十二編
十三編

梅蝶樓國貞画

おま 樂亭西馬作
吉三松梅竹取物語 初編
二編

梅蝶樓國貞画

中暑和中飲霍乱暑あつ

加正教以務菊四季の川風ニ師

法衣衣りは新之巻も糸

一粒丸大人の見ちこし

御白体は袂入の掛巻の草司入

即心一巻

御薰物は遊物 煉香

不淨除漬火鉢

雷除神丹世神丹ハ世ノ無難の秘法あり

旅行懐中御用意未貯薬多式入

御香木古伽羅

包玉右六国ノ種組合代金壹分より奉り奉る上ハ貳拾ハ

塗香右朱もろろおほゆる心切功能あるを以て社奉る事多し

御香木新伽羅

塗香右朱もろろおほゆる心切功能あるを以て社奉る事多し

御香木新伽羅



松寄宣孝朝臣
 西の海より
 来るかき
 あつてわのち
 ちのち
 ちのち



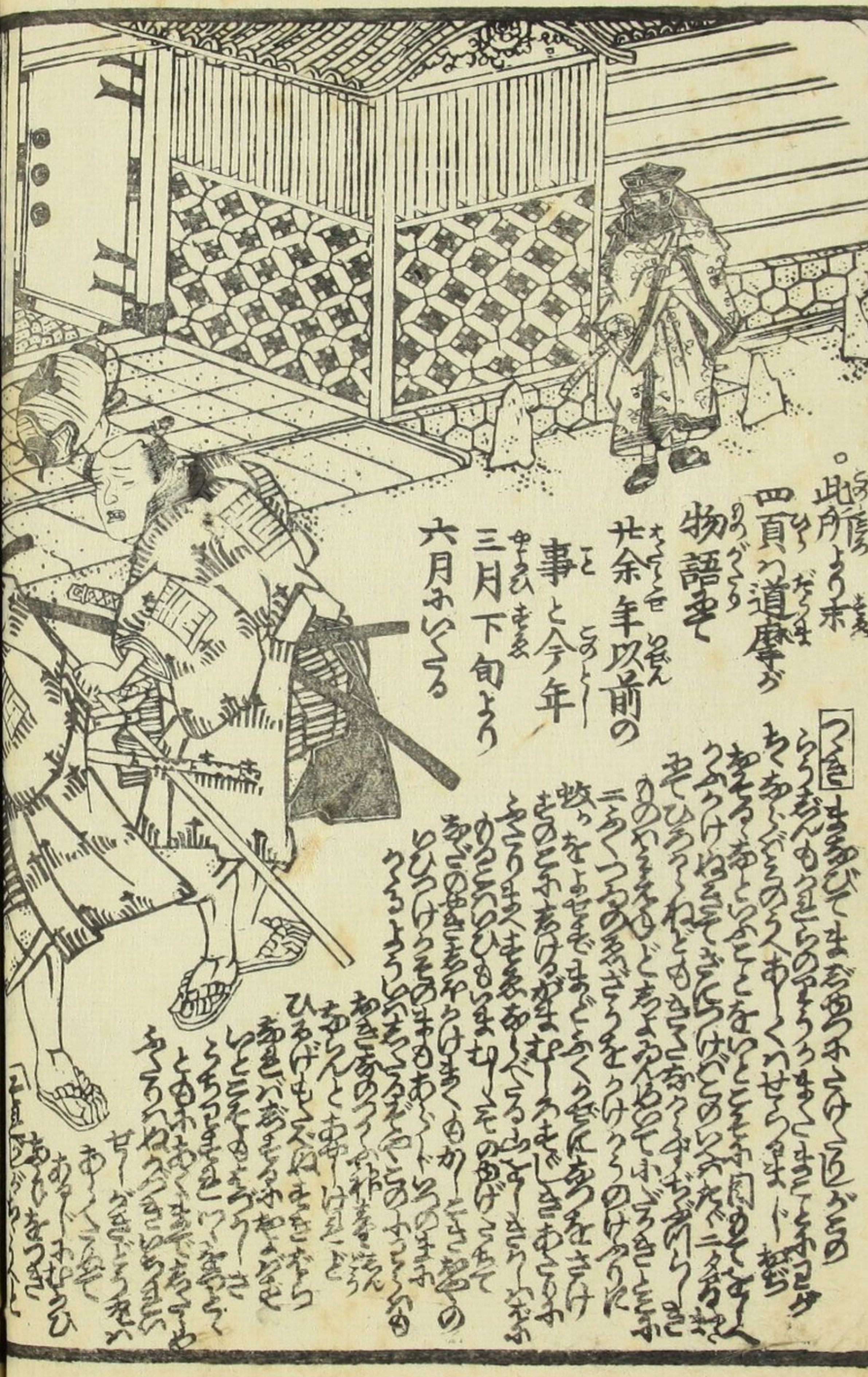




此の所より
 四頁の道摩が
 物語を
 廿余年以前の
 事と今年
 三月下旬より
 六月にかけて

此の所より
 四頁の道摩が
 物語を
 廿余年以前の
 事と今年
 三月下旬より
 六月にかけて

此の所より
 四頁の道摩が
 物語を
 廿余年以前の
 事と今年
 三月下旬より
 六月にかけて



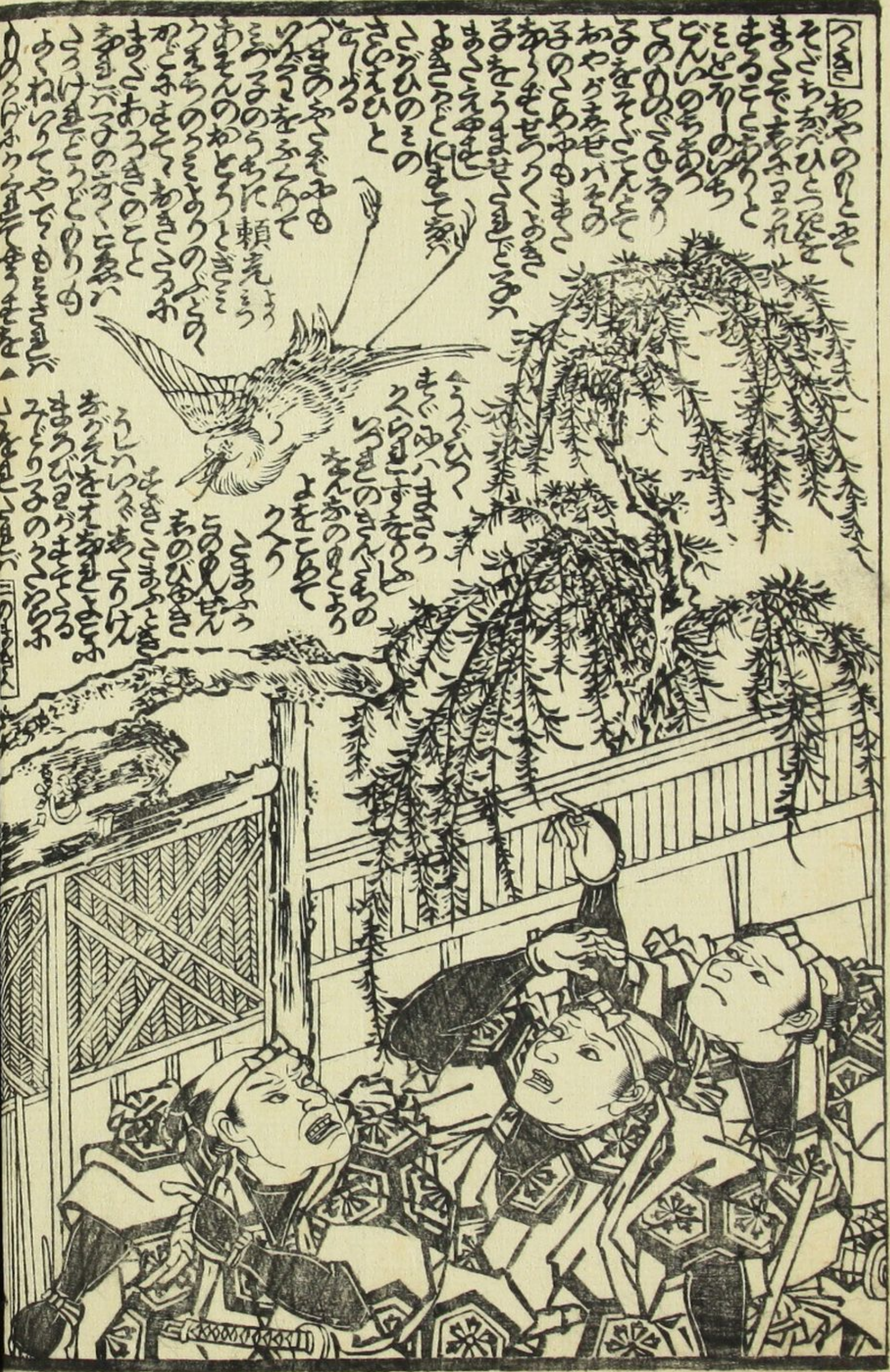
此の所より
 四頁の道摩が
 物語を
 廿余年以前の
 事と今年
 三月下旬より
 六月にかけて

此の所より
 四頁の道摩が
 物語を
 廿余年以前の
 事と今年
 三月下旬より
 六月にかけて

此の所より
 四頁の道摩が
 物語を
 廿余年以前の
 事と今年
 三月下旬より
 六月にかけて



Handwritten Japanese text blocks:
- Top right: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- Middle right: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- Middle left: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- Bottom right: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- Bottom left: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- Far left: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- Far right: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- Far bottom left: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- Far bottom right: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- A small box with the number '2' at the top center of the page.



Handwritten Japanese text blocks:
- Top left: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- Middle left: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- Middle right: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- Bottom left: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- Bottom right: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- Far left: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- Far right: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- Far bottom left: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- Far bottom right: Vertical text starting with '鳥かぎの...'
- A small box with the number '5' at the top center of the page.



あつてはさういふことに
なすはたしめやうとて
そのさういふことに
なすはたしめやうとて
そのさういふことに
なすはたしめやうとて

ふたつとさういふことに
なすはたしめやうとて
そのさういふことに
なすはたしめやうとて
そのさういふことに
なすはたしめやうとて

あつてはさういふことに
なすはたしめやうとて
そのさういふことに
なすはたしめやうとて
そのさういふことに
なすはたしめやうとて



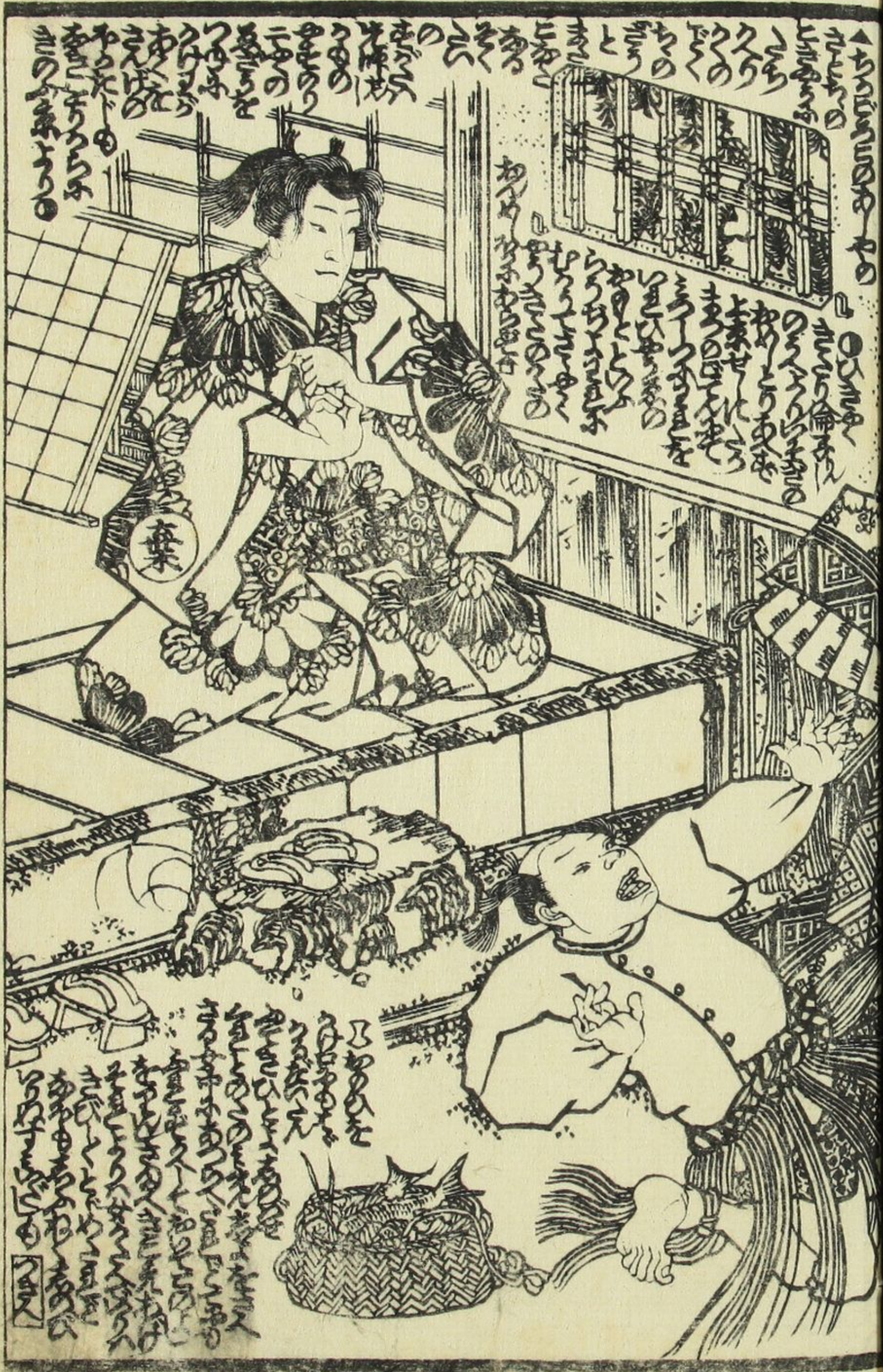
あつてはさういふことに
なすはたしめやうとて
そのさういふことに
なすはたしめやうとて
そのさういふことに
なすはたしめやうとて



あつたて



あつたて



Handwritten text in vertical columns, likely a transcription of dialogue or a commentary on the scene.

Additional handwritten text in vertical columns, positioned between the woman and the man.

Handwritten text in vertical columns at the bottom of the page, possibly describing the man or the basket he is holding.

Vertical text on the left edge of the page, possibly a page number or chapter reference.



Handwritten text in vertical columns at the top of the page, likely a transcription of dialogue or a commentary on the scene.

Handwritten text in vertical columns, positioned between the woman and the man.

Handwritten text in vertical columns at the bottom of the page, possibly describing the man or the object he is holding.

Vertical text on the right edge of the page, possibly a page number or chapter reference.



麻手

一

麻手

一

十二編より五編迄 仙果作
 追々賣出し申の 國貞画
 十二編より五編迄 仙果作
 追々賣出し申の 國貞画



紅藍吏部 根源實紫

十二編より五編迄 仙果作
追々賣出し申の 國貞画

十二編校子兒松崎の邸多女中小島等に嘲弄せらる憤懣を水せん

十一編實父壽祖不留守の式部野洲子鳥兒と共北野請の折柄大藏種村

通るに到る不才毒量名救免の過近江歸途中赤自も知親會條にて怪

都て花麗多物語十二編兼重式部の危難を救種村本心と矢ひ大式部と合歡

可笑味此事式部夫不疑と野洲子壽祖祈りと奇病の苦終小

死に至る等の悲哀の條多十三編鳥兒式部を姉の誓にて害を加え

大貳三位の美生校子兒嫉妬の惡念宣孝小校と宣孝も金創重り落命

又北越赴きける惟規の事を細記少將の君の貞操と説く十四編以下
の崖畧ハ別小説十ヶ

芝神明前 喜鶴堂主人敬白

根源 實 七 仿 喜

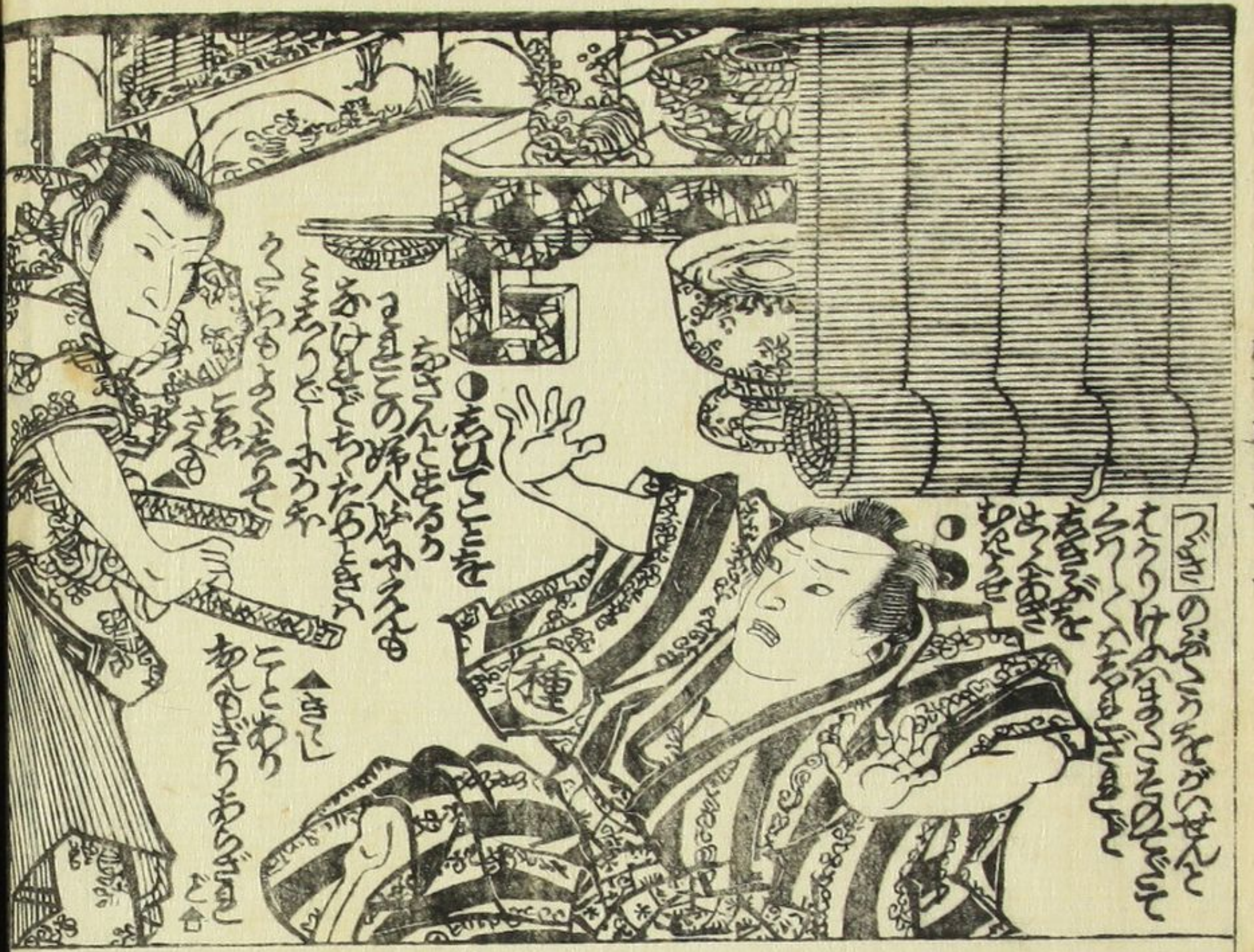
持行

十二編下

作題曲多三國史



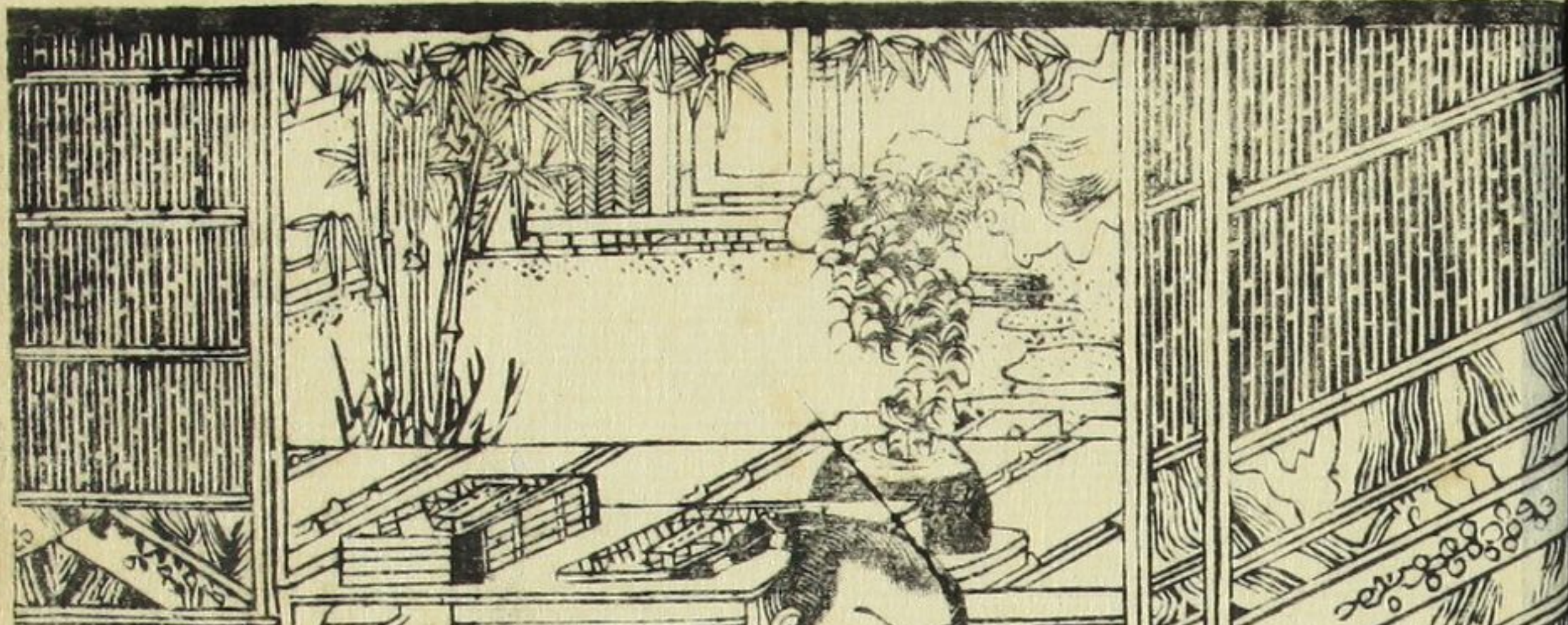




此の物語は、古今東西の物語に
 見ても、最も奇麗な物語の一つ
 である。その物語の内容は、
 非常に興味深いものである。
 物語の主人公は、
 非常に勇敢な人物である。
 物語の展開は、
 非常に興味深いものである。
 物語の結末は、
 非常に感動的である。

此の物語は、古今東西の物語に
 見ても、最も奇麗な物語の一つ
 である。その物語の内容は、
 非常に興味深いものである。
 物語の主人公は、
 非常に勇敢な人物である。
 物語の展開は、
 非常に興味深いものである。
 物語の結末は、
 非常に感動的である。





まてあまのうらなひのそと
くさしきつたてはちのそと
まてあまのうらなひのそと
くさしきつたてはちのそと



まてあまのうらなひのそと
くさしきつたてはちのそと
まてあまのうらなひのそと
くさしきつたてはちのそと

まてあまのうらなひのそと
くさしきつたてはちのそと
まてあまのうらなひのそと
くさしきつたてはちのそと

まてあまのうらなひのそと
くさしきつたてはちのそと
まてあまのうらなひのそと
くさしきつたてはちのそと

まてあまのうらなひのそと
くさしきつたてはちのそと
まてあまのうらなひのそと
くさしきつたてはちのそと

11



まてあまのうらなひのそと
くさしきつたてはちのそと
まてあまのうらなひのそと
くさしきつたてはちのそと



まてあまのうらなひのそと
くさしきつたてはちのそと
まてあまのうらなひのそと
くさしきつたてはちのそと

まてあまのうらなひのそと
くさしきつたてはちのそと
まてあまのうらなひのそと
くさしきつたてはちのそと

12



神泉苑の口

北の西の
あつらひ侍候府法
ひやくちん

女子
あつらひ

あつらひ
あつらひ
あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ



神泉苑

二

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

安政六年己未孟春新鐫目錄

<p>地本繪草紙團扇問屋</p>	<p>繪琴聲美人錄 山東庵京山作 十六編 十七編 十八編 立川齋國郷画</p>	<p>新增補西國奇談 梅蝶樓國貞画 為永春水作 七編 八編 九編 同</p>	<p>根源實紫 笠亭仙果作 十二編 十三編 十四編</p>
<p>芝神明前三嶋町角 佐野屋喜兵衛板</p>	<p>花兄弟陸奥名所 笠亭仙果作 二編 同</p>	<p>娘庭訓金鷄 梅蝶樓國貞画 山東庵京山作 三編 四編 五編 同</p>	<p>樂亭西馬作 直松梅竹取物語 初編 二編</p>

國貞畫 仙果著



實此十二

十



むきだしの中
紫野やまの祭

仙果化
國貞画

拾二編





以下全て

白紙

裁經下

法用